

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 22 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者 ☐ 市長 ☒ 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 人口減少・社会変化に対応する教育環境の再構築について

(1)人口減少に伴う学校統合・小中一貫校に対する浜田市のスタンスについて

- ①文部科学省「公立小中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」が 2015 年に示されている。今後、学校統合審議会で議論する場合、市としては教育的観点やコミュニティの核としての性格への配慮をはじめ、どのような「学校統合基準」を設けているのか伺う。
- ②文部科学省「令和 5 年度学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査」が 2023 年に実施されている。その中で学校規模の適正化を図る上での課題・懸念事項が全国規模で示されたが、当市にとっての課題はどう捉えているのか伺う。
- ③現在の児童生徒数だけを視野に入れて統合を実施すると、10 年後、20 年後に再び統合問題が発生する可能性がある。小中一貫教育等も視野に入れた、今後 20 年程度を見据えた学校再編計画を策定する必要があるのではないか、教育長の所見を伺う。

(2)デジタル社会を生きる力を育む教育戦略について

- ①小中学生の SNS 利用は低年齢化が進み、小学生高学年で 62%、中学生で 95%と驚きの数字が報じられた。その結果、犯罪被害の危険、SNS 依存と睡眠不足、ネットいじめや誹謗中傷、個人情報流出等子どもたちの安心環境が揺らいでいる。現在当市の小中学校では SNS、情報モラル教育をどのように実施しているか、適正使用に関する方針を伺う。
- ②学校現場において、授業における生成 AI の活用範囲、教職員自身の AI 活用能力の向上等課題は山積している。教育委員会として、生成 AI の学校現場での活用について、統一的な基本方針やガイドラインを策定しているのか、もしくは策定する考えはあるのか伺う。

(3)危機管理能力としての水泳教育の推進について

- ①全国的な子ども達の泳力調査で、小学 6 年生を対象に調査を実施した結果が報じられた。その結果、クロールで 25m を泳げる児童が過去ピーク時は全国で 80%強に対して、現在は 40%強に留まっており、問題視されている。当市における児童生徒の泳力評価について伺う。
- ②文科省も 2026 年 2 月、「持続可能な水泳授業の実施に向けた資料」を示し、多角的に水泳授業の在り方を検討する必要があるとしている。たしかに泳力向上は必要だが、海に面した当市として、水泳教育を、水難事故から自らの命、他者の命を守る危機管理教育として強力に推進すべきではないか、所見を伺う。

(4) 早急な学校体育館の空調整備について

- ① 猛暑が続く近年、学校体育館に空調設備の設置を検討する自治体が増加。また全国で災害が増加する状況下で、学校体育館が避難所に指定されていることも多い。当市もライフラインが停止した場合でも空調・照明が使用できる空調等整備計画策定が至急必要ではないか、所見を伺う。
- ② 熱中症対策と避難所機能の向上の両面から、体育館の環境改善を目指すことが求められる。そうすると熱中症対策として教育総務課、避難所としての安全向上対策として総務課の両課連携チームで計画立案、予算要求を行うのが望ましいのではないかと、所見を伺う。

(5) 不登校児童生徒の多様な学びを保障する教育環境の構築について

- ① 本市において、フリースクール等学校外の民間施設に通う不登校児童生徒について、施設での活動を指導要録上の「出席扱い」としている実績があるのか。もしそうであるなら、その判断はどのような「基準」で行っているのか伺う。
- ② 不登校の子ども達にとって、「学校に行けたか？」ではなく、「どこで、どのように学び、社会と繋がりを持てているか？」ではないのか。そうであるなら、フリースクール等で懸命に学んでいる子ども達の努力を学校教育として適切に評価する仕組みを整えるべきと思うが、所見を伺う。

2. 魅力あふれる文化都市の実現について

(1) 地域文化を誇る市民意識の醸成について

- ① 市民憲章の中に示されている「文化の薫るまち」を市長はどうイメージしているか伺う。
- ② 浜田市の魅力あふれる都市の実現のためには、ユネスコ世界遺産の石州和紙文化、日本遺産や大名行列等、地域が誇る様々な文化を地域住民が心から誇り、育てていく環境整備と市民意識の醸成が不可欠である。本市の地域文化を次世代の子どもたちが、「自分たちの誇り」と感じられる文化として育てていくため今後どのような戦略を描いていくのか所見を伺う。

(2) 石見神楽振興に関する具体的アプローチについて

- ① 先日東京富岡八幡宮の深川祭に浜田市から旭町の社中に参加いただき、浜田市の石見神楽の魅力を存分に伝えていただいた。そこで、県外、海外公演により触発された地方誘客、それに伴う経済効果を可能な限り調査し、観光戦略に活用できないか所見を伺う。
- ② 石見神楽による「攻め」の観光戦略は、当然のことながら石見神楽を未来に繋げる文化伝承事業にかかっている。つまり人口減少の中での後継者育成が極めて重要である。今後、市として「石見神楽の郷づくり」の根幹である「後継者育成」に対する具体的施策について伺う。
- ③ 石見神楽関連ものづくりに対する文化財指定については、最近、石見神楽蛇胴の市文化財指定以降、具体的動きが見えない。先日、石見神楽振興議員連盟として、文化財保護に精通している方を講師に文化財指定に関わる研修会を開催し、指定の重要性を再認識した。指定までの作業効率化に関しても示唆を受けたが、改めて文化財指定までのロードマップ策定に対する所見を伺う。

(3) 石見神楽保存・伝承拠点基本構想の決定過程と市民の合意形成について

- ① 現在策定が検討されている基本構想は、長年議論を重ねてきた石見神楽保存・伝承の一つの到達点であると同時に、これからの議論の出発点と考える。市長が年度内に方向性を示すとした構想に伴う重要な市民アンケートの内容に関して、業者が積算した 31 億円という整備費が独り歩きをしている。このアンケートの設問設計が適正であると認識しているか伺う。
- ② 仮にアンケートの設問や情報提供の方法について、市民から回答を一定方向に誘導しているのではないかと指摘があった場合、市長はそのアンケート結果をそのまま民意として受け留めるのか。それともアンケートの設計自体の妥当性を検証した上で判断するのか伺う。